

線速一定機能に関する不具合情報

以下の 3 件の不具合についてご報告いたします。

いずれも線速一定機能を使用した際に発生する現象であり、条件や影響範囲が異なります。

ご確認のうえ、該当する条件でのご使用をお控えいただくか、回避方法を実施くださいますようお願い申し上げます。

1. 線速一定補間動作後の通常ドライブで速度が遅くなる場合がある不具合

対象製品：

MCX512 及び MCX514

現象：

線速一定補間動作を実行した後、次に行う通常ドライブの速度が設定値よりも遅くなる場合があります。

発生条件：

MCX512 と MCX514 で発生条件が異なります。

・MCX512 の発生条件

1. 補間動作において線速一定機能を使用する（種別は不問）
2. 補間動作を合計 8 回以上実行する（補間動作と補間動作の間に通常ドライブが行われる場合も含む）
3. 8 回目以降の補間動作において線速一定機能を使用し、その後に通常ドライブを行う

・MCX514 の発生条件

1. 補間動作において線速一定機能を使用する（補間種別は直線補間、円弧補間。線速一定種別は不問）
2. 補間動作を合計 8 回以上実行する（補間動作と補間動作の間に通常ドライブが行われる場合も含む）
3. 8 回目以降の補間動作において線速一定機能を使用し、補間中に停止動作を行う（命令、エラーなどによる停止）
4. その後に通常ドライブを行う

この現象は通常補間、連続補間いずれの補間でも発生します。

発生条件 2. の「補間動作を合計 8 回以上」の条件は、通常補間は 8 回、連続補間の場合は 8 セグメント以上となります。

対処方法：

補間終了後、または通常ドライブ開始前に**移動量 0 の 2 軸直線補間**を実行してください。

これにより、以降の通常ドライブが正常に動作します。

ただし、MCX514 の発生条件 3 の「停止」がエラー停止の場合は、補間終了後に回避策を挿入し、回避策実行後、エラー解除動作を行ってください。

2. 線速一定補間動作とその他の軸の通常ドライブを同時に実行させると、通常ドライブの速度が不正になる不具合

対象製品:

MCX514

現象:

線速一定補間動作と補間軸以外の軸の通常ドライブを同時に動作させると、通常ドライブの速度が設定値より遅くなるなどの不正が発生します。

発生条件:

以下のいずれかの動作パターンで現象が発生します。

- ・線速一定補間動作と通常ドライブを同時に開始
- ・線速一定補間動作開始後、補間動作中に通常ドライブを開始
- ・通常ドライブ開始後、通常ドライブ実行中に線速一定補間動作を開始

対処方法:

本現象を回避する方法がありません。

補間動作と補間軸以外の軸の通常ドライブが同時に動作する可能性がある場合、補間動作の線速一定は無効にしてご使用ください。

3. 3 軸線速一定簡易モードで主軸が長軸以外になると速度が不正になる不具合

対象製品:

MCX514

現象:

3 軸直線補間で「線速一定の 3 軸簡易モード」を使用時、主軸以外の軸が長軸になると速度が遅くなる現象が発生します。

発生条件:

- ・3 軸直線補間動作において、線速一定の 3 軸簡易モードを使用する
- ・主軸以外の軸が長軸になる

対処方法:

本現象を回避する方法がありません。

そのため、線速一定の 3 軸簡易モードは使用不可といたします。

以上